

## 平成 22 年 ふれあい座談会

主 催	ふじみ野市
テ ー マ	大井総合支所の再整備について
日 時	平成 22 年 12 月 1 日(水)・午後 8 時～ 9 時 40 分
場 所	大井総合支所 第 2 庁舎 3 階 第 1、2、3 会議室
参 加 者	140 名
市	市長、総合政策部長、秘書広報課長

(開会・市長あいさつ 省略) 以下は主な質疑です。

参加者：今の市長の話聞いていて二つ疑問点がある。今日は支所の再整備についての話じゃなかったのか。今の話は半分以上が消防の話で、支所の再整備の話は抽象的過ぎてまったく何が何だか解らない。私は鶴ヶ丘 3 丁目に住んでいてここからは遠いとは言え、この話が分かったのは市の広報で知った。しかも昨日受け取り昨日知った。もっと事前に知らしめるべきではないのか。やり方が非常に乱暴だ。

参加者：私も今日受け取った広報で知った。市民のニーズに応えるのならこんなことは実におかしい。大井総合支所の整備は大井在住民にとってはとても重要なことだ。近辺の方には事前にお知らせしたかもしれないが、私は初めて今日知った。このような話し合いは今日で終わらせるのではなく、何度もやって欲しい。今日で終わりにするのならアリバイづくりとしか言いようがない。

参加者：支所近辺 500 メートルの範囲内の町会に、今日の集会に関する案内文が配られた。その時に私は『この話は 6 町会だけの話ではない』と言い、通知文書の中身もおかしかったので変えるよう意見したのに、聞き入れなかった。やり方がワンマンだ。

部 長：こういった説明会なり集会を開く際には、地域を分けて開催するのが通例です。そういったことから今回も目安として決めさせていただきました。それから、市報についてはどうしても原稿締めの関係から早い時期にお知らせすることができず、ギリギリになってしまい申し訳ありませんでした。

参加者：今日、役所に電話をかけてこの座談会は今後また開かれるのか確認したところ、もうやらないと言われた。どういうことだ。

部 長：次を開催しないとは言っておりません。

参加者：市民にとって安心・安全が何よりだ。北海道の釧路で災害で潰れてしまった消防の例がある。何も機能せず実に大変だったと聞いている。市民の命と財産を守る消防本部建設を積極的に進めて欲しい。

参加者：この辺りは区画整理の時に行政ゾーンとして今のようなかたちになった。さっきのような複合施設をつくるような場所ではない。なぜ国道254号線の西側にそんなものをもってくるのか。ましてこの場所は大井一丁目1番地だ。なぜ消防なんかをもってこなくてはならないのかが、まったくわからない。道路環境も悪いはずだ。

市 長：消防施設は調整区域でもつくれるのではないかというお話ですが、消防施設についてはシビックゾーンの一角を成す施設と考えています。上福岡の消防も住宅街にあります。こちらについても一つのシビックゾーンという認識をしております。消防本部の指令台更新はここでどうしてもやらなければならない時期であり、このエリアで違う場所を探すととなかなか難しい状況です。消防からは住宅密集地からは遠いエリアということで依頼が来ており、そういった中で議会でも議論してもらいました。

参加者：この話はまだ具体的にはなっていないのか。消防施設を否定するものではないが、ここの場所は行政の核だった。ここじゃなくてもいいじゃないか。大井町時代のゾーニング計画とはまったく異なった計画だ。何のための区画整理だったのか。

市 長：過去において富士見市の方で消防本部を持ちたかった経緯があります。しかし、旧大井町の議員さんたちは大井町に消防本部を残しておきたかったということがありました。このようなことから消防は大切な行政の一部であります。しかしながら、8月以前の段階では消防の話はまったく無い状況で庁舎の老朽化問題だけをテーマに検討してきた中で今回の話が出てきた訳であります。

参加者：消防が重要であることは理解している。合併協議会での協議では支所にすべての業務を残すということだった。合併後、支所の機能がどんどん低下しており先ほどの市長の説明もごもつともであるが、ここは一体どうなってしまうのだろうという不安が増すばかりだ。支所ありきの議論が筋なのではないか。決して消防中心で考えるべきではない。そして、もっと詳しく説明してもらいたい。

市長：決して消防ありきではありません。支所の機能アップが第一義と考えています。その中で庁舎の整備問題があり、その後の消防問題が浮上した中で、支所の建物を新しくして市民サービス機能をアップしたいが併せて土地の一部を有効利用させることにより、土地代としての入も生み出せるという計画であります。ですから、この計画を進めるにあたりましては、皆さんのニーズにお応えしたいと考えています。今後、4人に1人、3人に1人が高齢者という人口減少化社会の中で、国の制度改正や交付金に頼っていたのでは、到底追いつかないという現状において、我が市にとって少しでも有利な手段を使って、支所機能を元に戻していきたいという思いであります。新しい支所構想については、まだフロア数なども考えていませんが、とにかく大井町役場時代にできたことは、少しでも元に戻していきたい、皆さんの求める姿に少しでも近づけていきたい、その中で消防は別組織ではないというのが私の考えです。今回のこの場所の有効活用は絶対に市民の利益であります。

参加者：対等合併であるならば、まず最初に支所の話をするべきだ。総合支所ありきであるというならば、何もむくれる話ではない。もっと本音の話をして、特例債の話もしてくれれば良かった。ただ、ここのシビックゾーンのプランニングを潰すことは無しにしてくれ。市長は前市長の島田市長もこの話には賛成していると言っていたが、本人と話したがそんな話はしていないと言っている。西地域の人間はこの場所に思い入れがある。過激派などと言われたくない。何とかしたいと思っているだけだ。まずはこの支所の絵を見せてもらって、少しの部分を消防にくれてやるというのならいい。

市長：前市長にこの話はしていません。ただ、市長であった時に公共施設適正配置計画を策定していた経緯から、高齢化率20パーセントを超えるこの市の状況で、多額の経費を投入した新しい施設を市の中心部に建設することは非常に難しいということは知っていたであろうと申し上げました。出来ることとして考えられるのは、支所のリニューアルによる機能アップと本庁舎の耐震化であります。

副市長：支所らしさを取り戻すための努力をし、実現していきたい。皆さんから意見をいただいて、計画に反映していきたいと考えています。

参加者：この合併は対等合併だったはずだ。それなのに、島田市長の時から上福岡と大井は8対2だった。それを5分5分に戻そうとしてくれているのは分かるが、今はITの時代であり、TV電話の時代なのだから、自宅で何でもできることはあるはずだ。だいたいこのふれあい座談会

自体をこんな時間から始めるのはおかしい。市長の説明が30分、ふれあう時間がたったの1時間。これじゃあ何の意味も無い。

市長：仕事を持っている人は8時頃からが適当と考えました。タウンミーティングの時も7時からという開会時間について、適当でないという意見が多数ありました。

参加者：一回だけの開催じゃなくて土日を利用して夕方7時頃からやってもらいたいことと、二つばかり言いたいことがある。一つ目は、シビックコアゾーンに消防が来るということだが、総合福祉センターの建設の時は3年間かけて検討をした経緯があるのに今回のやり方は乱暴だ。消防の公害問題をまず示してからいかがでしょうか、というのが筋ではないか。二つ目に、聖路加病院の跡地がいつまでも空いている。あそこはフェンスに囲われた広大な敷地である。あそこの土地の活用については検討したのか。聖路加病院と積極的な交渉をトップとしてやって欲しい。

市長：消防に関する公害データはありません。建築上の公害ということであればクリアできるはずです。そして、消防施設については聖路加病院の土地の話は時間がかかり難しいことと、もう一つ地元医師会との問題があるのではないかと考えます。

参加者：消防の公害データは必ずあるはずだ。昼夜を問わずウーウーカンカンと子育て家庭ではかなり迷惑なはずだ。環境、騒音問題は必ずある。苗間の消防署のデータはどうなっているのか。聖路加病院の件も含めて、市長はもっと勉強が必要だ。医師会と市民とどっちが大切なんだ。

市長：医師会に押されている訳ではありません。日頃からいろいろな面でご尽力いただいていることから、協議をする必要があると言っただけです。

部長：出勤状況に関するデータですが、6署体制で1日平均22件ですので、1署あたり4件弱ということになります。火災は年間47件ですので、1署あたり年間8件弱ということです。さらに、消防署を出てから300～500メートル走ってからでないとサイレンは鳴らさないようにしていること、それから、出先から出先という出勤態勢も頻繁でありまして、常に本拠地からの出勤ではないことをお伝えさせていただきます。

参加者：支所の充実と言っているが内容が伴っていない。すべてのことが本庁と同様にできるようになるのか。窓口機能の充実というだけでは納得できない。全体ビジョンが示されず、春日部市の例だけ見せられ、窓

口業務の充実というだけではまったく何も見えてこない。大井町の時はとても行政が近かったのに、合併してからはとても遠く感じる。市のビジョンや地域ごとのあり方をもっときちんと示して欲しい。そして、市民からいろいろなことが見えてくるまでは、何も動いてはいけない。いきなりは絶対だめ。

市長：どこがどうなるのかということをはっきりお示ししたいと思います。とにかく、今まで支所でできなかったことを少しでも早くできるようにしたいと考えています。そのためにまず、この12月から職員を配置して、相談業務を始めました。市民課や福祉関係の部分についてできることは、建て替えに関わらずどんどん取り入れていきたいと思えます。

参加者：このシビックゾーンの利用の仕方について、具体的なものが何も見えてこないから不安や不満でいっぱいになる。さっきも少数の過激派だけが反対しているようなことが出ていたが、反対・賛成を問う主旨の会合ではないと言いながら、他団体との会合の時は賛成・反対を問っているじゃないか。何にしても我々は以前からこの問題については、白紙撤回をお願いしたはずだ。それに対する答えももらっていないが、とにかくゼロから進めるということをこの場で確認させていただく。

市長：地権者との関係などがあり、限られた情報しか無い中で、支所が廃止になるという噂が広がってしまった。この誤った情報がもの凄い勢いで流れてしまったことは合点がいかないが、この場所が市民の思い入れが大変深いということは理解しています。公共施設適正配置の件についても、今後、検討を進める中で行政全体の運営コストが落とせるのならば、廃止や統合をしなくてもいいと考えており、今後、さまざまな検討をする中で、皆様のご意見を聞かせていただきたいと思います。消防施設については、答えを出さなければいけない期限があります。白紙にするという話は、すべての可能性をゼロにするということになってしまうので、必ず市民の皆さんの利益になると確信しているこの構想に、ご理解をいただきたいと思います。